

第 11 回日本災害時透析医療協働支援チーム (JHAT) 研修会を共催しました (2024/7/6)

テーマ：災害時の透析支援
会場：東北大学災害科学国際研究所（仙台市）

2024年7月6日に、日本災害時透析医療協働支援チーム（JHAT）と災害医療国際協力学分野の共催で、第11回 JHAT 研修会を災害科学国際研究所において開催しました。災害医学研究部門の江川新一教授（災害医療国際協力学分野）は講師としても登壇し、全国から集まった約100名の医師、臨床工学技士、看護師などの医療従事者に「災害に強い社会と医療供給体制」と題して講義を行いました。

JHAT は 2011 年東日本大震災のときに、被災地の透析を必要とする患者さんたちの命を救うために、透析医のネットワーク、日本 DMAT、自衛隊、警察、消防が一体となって、気仙沼地区の患者さんたちを仙台に搬送し、東北大学病院で中継の透析を行ったのちに北海道に搬送することで、同地区で震災後に1度も透析を受けることができなかったために死亡した患者さんの発生をゼロにすることができたこと、また、同様の支援が東日本大震災の被災地の数か所でできたことをきっかけに、2015年に結成された特殊支援チームです。熊本地震では37名の専門職の JHAT 隊員が支援活動を行いました。その他の大災害において先遣隊を派遣し、令和6年能登半島地震においては「支援物資供給センター」を開設し、また専門職の隊員を医療施設に派遣するなどの活動とともに、EMIS や災害対策本部で情報を共有し、多くの透析患者さんの命を救いました。この JHAT 研修プログラムは、座学に加え、グループワーク、机上訓練などが組み込まれ、顔の見える関係を築くことも目的としています。

江川教授は、災害リスクの考え方に基づく防災の理論的な考え方、高齢化社会はレジリエントな社会ということができる理由などを説明し、2011年東日本大震災の透析患者さんたちの広域搬送について、WHO ガイダンスにも記述されていることを紹介しました。また東北大学病院血液浄化療法部からも実際の災害対応体験をもとに、モバイル通信が機能しない状況や、被災者・支援者の安全、ネットワーク形成の重要性が講演されました。



多目的ホールでの研修会の様子



机上訓練で壁一面に貼られたクロノロ